福島県
教育新聞

発行人
発行所　福島県教職員組合
福島市上浜町10－38　電話024－522－6141
〔定価一部　20円〕
編集・責任者　瀬　戸　禎　子
e-mail : ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
http: //www.f-t-u.or.jp
（この購読料は組合費に含まれています。）

教職員共済
ご住所の変更は
お早めにご連絡ください
福島県事業所
☎ 024-523-3011

ピンチはチャンス！みんなで声をあげましょう！

昨年の12月16日（土）、郡山駅前西口広場・アティ郡山前にて、学校の多忙な現状について改善を求める街宣行動を実施しました。街頭演説には郡山市議の二人も駆けつけてくださり、学校で「働く人がいない」のではなく、「働きたい人がいない」現状を変えなければならないことを訴えてくださいました。そのために、郡山市議として各学校の“働き方改革”推進に向けて取り組んでいく決意もお話しくださいました。

また、街頭演説と同時に、日教組の緊急提言資料を配布し「学校の大ピンチを救うための緊急署名」も取り組みました。

通りかかった高校生が署名をしながら「中学校時代に、先生が突然お休みして、その代わりの先生が来なかったんです。」という話をしてくださいました。当時の状況について詳しく話を聞いたところ、「他の学年の先生が急遽、自分たちの授業を受け持ってくれて、みんなで支えてもらってありがたかった。」という話も聞きました。

学校で生活している子どもたちも身近な教職員が休み、代替教職員がいないことから人員が足りていない状況、そして教職員みんなが共に支えあって学校を運営していることに気づいていることを改めて実感させられました。

その他にも、県外から郡山に来て署名してくださった方や、教職員が親戚にいて協力しますと言ってくださった方など、多くの皆様にご協力いただきました。「伝えること」が私たちの思いや活動への理解の大きな一歩につながることを実感しました。

学校が大ピンチ！　全国でアピール行動を！

１月20日には、「学校が大ピンチ！　７つの提言の実現を求める全国集会」が対面とWebで開催されました。全国で39カ所のサテライト会場を設置し、対面とWebあわせて5,000人規模の集会となりました。

福島県教組は、東京会場での対面参加に加え、福島市、会津若松市、白河市、いわき市の４カ所からもWebで参加しました。パネルディスカッションでは、４人のパネラーから不妊治療と仕事の両立が難しい実態や男性の育児休業取得の実態などが話され、「働き方改革」を早急に進めることの必要性を強く感じました。

東京会場

サテライト会場（福島）

各分会でも取り組んでいただいた「学校の大ピンチを救うための緊急署名」は、２月21日現在で4,200筆にのぼり、近年稀にみる筆数が集まりました。これも各支部・各分会、そして一人ひとりの組合員の力があっての数です。きっと分会だけでなく、家族や友人にも声をかけていただき、集めてくださったことと思います。尽力いただき本当にありがとうございました。皆様の力が福島県教職員組合全体の大きな力となって、３月に中央教育審議会「質の高い教師の確保特別部会」に届きます。今後の文科省の政策に、この署名が反映されるかもしれません。今後の中教審の動きを注視しつつ、引き続き、私たちができる“働き方改革”を、仲間と共に進めていきましょう！

2024年度～25年度の県教組中央執行委員が決定しました！

福島県教職員組合役員選挙の結果　2024年２月９日投票　10日開票

中央執行委員長	瀬戸禎子（福島支部）	
副中央執行委員長	鈴木　直（福島支部）	※非専従
書記長	渋谷隆之（福島支部）	
書記次長	吉田純一（田村支部）	
日教組中央執行委員	菊池ゆかり（石川支部）	
中央執行委員（中核市支部担当）福島	佐藤英子（福島支部）	
中央執行委員（中核市支部担当）郡山	石川謙二（郡山支部）	
中央執行委員（中核市支部担当）いわき	鈴木真一（いわき支部）	
中央執行委員（女性部長）	宍戸明子（郡山支部）	※非専従
中央執行委員（青年部長）	八代耀佑（岩瀬支部）	※非専従
監査委員	明石栄子（福島支部）	
監査委員	伊藤美奈子（郡山支部）	
監査委員	星　和雄（両沼支部）	

第264回定期中央委員会開催

２月17日(土)福島県教育会館において、第264回定期中央委員会を開催しました。冒頭、１月１日に発生した能登半島地震の犠牲者へ哀悼の意を表し、黙とうを行いました。

書記長から議案の追加を受け、質疑８本が出されました。また、第263回中央委員会から実施した３つの柱での討論（①組織強化・拡大②長時間労働是正・多忙化解消③平和・人権・環境）は18本出され、支部での取り組みや分会での人員不足の状況、青年部活動について等、各支部間での情報共有ができました。

追加された議案は以下の通り

《１》議案書３ページ、右側、41行目

四、労働条件改善、労働基本権確立、民主的人事を要求する取り組み

１．労働条件改善

> ⑵　全国署名のとりくみ
>
> 20人の教育研究者有志が「教員にも残業代を支給すること。学校の業務量に見合った教職員を配置すること。これらを実現すべく教育予算を増額すること。」の３点を国に要請すべく、「教員の長時間勤務に歯止めをかけ、豊かな学校教育を実現するための全国署名」を実施。
>
> 県教組も非常に重要なとりくみととらえて、７月10日に署名の要請を発出した。23年12月末までに2,643筆を集約し、事務局へ郵送した。

記載されている「⑵地方公務員の定年引上げについて」は⑶とし、以下（　）の番号を繰り下げ。

《２》議案書11ページ、左側、16行目

五、脱原発・教職員の生活保障・放射能から子どもたちを守る運動の推進

> ２．「ALPS処理水」海洋放出と原発推進政策に反対し、安心・安全・再生可能なエネルギー政策への転換を求める。

記載されている「２．」は「３．」に繰り下げ。

受け入れた修正案は２本

○p.10右35行　追加⑹定年引上げ後も安心して働き続けられる職場環境の実現、賃金水準の改善をめざす。

○p.11右36行　追加３．「安保三文書」防衛費増額の危険性を明らかにし、軍拡、増税に反対する取組を進めます。

学校の多忙化に拍車をかける「福島県総合教育計画」

「肥満傾向児出現率」

教育課程編成検討推進委員会からの提言⑥

肥満傾向児（幼・小・中・高）出現率の全国平均（100）との比較値		
現況値		目標値
（令和元年度）	（令和３年度）	
133.8	140.7	100

子どもも教職員も追い詰める目標値

①　多忙化に拍車ー「肥満対策ガイドライン」の強要

●養護教員…肥満指導全体計画作成、個別指導のための○○教室、家庭への文書作成、学校医への連絡など作成資料が10種類以上ある！

●栄養教職員、食育コーディネーター…食事、おやつなどの栄養指導、休業中の食事チェックなど個別対応の仕事が増加！食育指導者の資質向上も求められ、研修が増加するかも!?

②　子どもの人権を侵害

「肥満＝自己管理能力がない＝だめな子」という意識をインプットし、差別を助長していじめに発展してしまう恐れが…。肥満は子どもだけの責任ではないのに。

③　家庭への不当な介入

健康相談、肥満教室、家庭の食生活指導、親子関係など、前回の「朝食調べ」同様に、家庭生活に介入しすぎです。

「人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる」とは言うけれど……?

健康教育の一環として位置づけられた肥満対応ガイドラインでは、「子どもの肥満は大人の肥満につながる」として、生活習慣病を引き起こす肥満のリスクを警告しています。しかし、そのための指導は、すべて学校の教職員が担うことでしょうか。生活習慣の管理まで行うことは、教職員としての業務を超えています。

子どもが健やかに成長できるよう、わたしたち教職員が専門性をいかして指導したり見守ったりすることは確かに必要です。しかし、学校が全てを担おうとすると、業務量が膨大になり、本来の業務に専念できません。医療や福祉と連携した取り組みも必要です。

もっと、別の角度から子どもの健康をみてあげましょう。そのために多忙化を解消し、子どもや職場の同僚と対話し合える、職場のゆとりを生み出すことが、必要なのです。

第73次全国教研（札幌市）開催！（1／26～28）

４年ぶりに対面開催となった全国教研。福島県からは教文部長、４人の司会者、昨年秋の県教育研究集会の分科会で推薦された５人のリポーターのほか、傍聴として２人が参加しました。

全体集会（会場：札幌ドーム）には全国から約3,000人の仲間が集いました。
記念講演の講師は女優の東ちづるさん。人とつながることの大切さを改めて感じる内容でした。

美術分科会には、初参加の青年組合員がリポーターとして参加。全国から集まった子どもたちの作品も鑑賞しながら、意見交換を行いました。福島県内の中学生の作品も展示し、参加者からの感想やアドバイスを受けました。

環境・公害分科会では、県教組放射線教育推進委員会の取り組みや、福島県の学校の現状などについて発表しました。他県からの参加者からは、「報道されていないことを知るよい機会になった。」と感想が聞かれました。

両性の自立と平等をめざす教育分科会に傍聴で参加。性別や固定観念にとらわれない生き方、学校にある無意識のジェンダーバイアスなど、多くの視点から学ぶことができました。行ってよかったとの感想がありました。

みんなのひろば

昨年の秋のはじめ、公園や近くの神社に行ったり、お散歩をしたりすると、たくさんの松ぼっくりやどんぐりが。見つけた我が子は大喜びで、夢中になって拾い、あっという間に袋がいっぱいになりました。秋の訪れを感じながら、目をキラキラさせて楽しそうに拾う子どもたちの姿に、私もほっこりした気持ちになりました。
もうすぐ春です。つぎは、どんな宝物を見つけてくるでしょう？楽しみになります。

（福島伊達支部　Ｔさん）

吉田書記次長のふくしまオルグ紀行⑧

青年層や臨時採用の方など、新しい仲間が増えています。今回は青年層のＨさんへのインタビューです。

Ｈさん（会津地方・小学校教員）

①「組合に入ろう」と思ったきっかけは？

「組合の必要性を感じたからです。」

②今のお仕事をめざしたきっかけは？

「子どもの頃悩んでいた時、寄り添って話を聞いてくれた先生に救われた経験があり、自分もそうなりたいと思いました。」

③これから、どんな学校（職場）になってほしいと考えますか？

「時間や仕事に余裕があり、元気な心で子どもたちと向き合える学校になってほしいです。」

職場の先輩組合員の後押しで加入してくれたＨさん。支部の学習会にも参加してくれました。加入を勧めた先輩も、「バトンがつながってうれしい！」と喜んでくれました。
Ｈさんとの関係の深さを感じました。